令和３年度

太田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自己存在感を高め，自己のよさを集団や社会の中で生かしていこうとする
自己指導能力をもった子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
教諭　乾　宏樹
（中・高学年推進委員）

委員
総括　研修主任
教諭　乾　宏樹（中・高学年推進委員）
講師　大櫛　未歩

校長
西　岡　秀　信　　印

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職（校長）による授業参観と，定期的な研修会や報告などによる状況把握

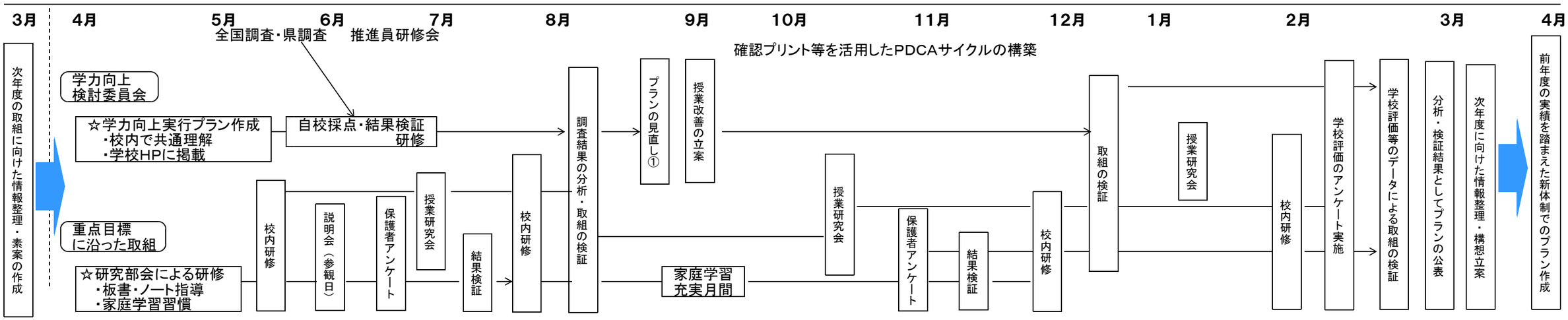
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○反復練習を繰り返したことで，漢字の読み書きや，四則計算などについてはある程度の定着が見られる。 ●漢字の意味を理解し，正確に書いたり，活用したりすることに関しては十分とはいえない。また，習得状況に個人差が見られる。	・学習課題に粘り強く取り組み，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	①「ドリル学習」の時間に，漢字・ローマ字・計算・文章題を軸に反復練習をさせて定着を図る。 ②日記や作文の中で学習した漢字が適切に使えるよう指導する。		①「ドリル学習の時間」を毎日確保し，個人差はあるが基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができた。 ②日記やノートなどに既習の漢字を概ね使い表現することができた。	・今後も継続して漢字や計算問題の反復練習に取り組むと共に，個に応じた内容や活用問題にも挑戦できるようにする。 ・新出漢字の効果的な指導について研修し，学年に応じて授業に生かせられるようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習や行事等の感想など，書く機会を多く設けることで書く力がついてきた。 ●文章や資料から，相手の意図することを読み取って書くことに課題がある。	・読んだり聞いたりしたことを正確に理解し，自分の気付きや考えを論理的に書いたり，話したりすることができる。	①新聞等を読む時間を設け，記事の内容について気がついたり考えたりしたことを表現させる。 ②新聞等に書かれていることを読み取り，要旨を見つけたり一定の文字数にまとめて書いたりする時間を設ける。		①「阿波っ子タイムズ」を活用して，国語の時間を中心に意見交換をした。 ②新聞感想文の課題に取り組むことはできたが，授業の中で新聞を活用した書く活動が十分に確保することができなかった。	・教科書の文章をはじめ，新聞や資料などをもとに感想を述べ合ったり要約したことを発表したりする活動を取り入れ，対話的な学習の充実に努める。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○家庭学習の仕方が身に付き，与えられた課題にまじめに取り組むことができる。また，朝の読書が定着しており，集中して読書ができている。 ●宿題以外の自主学習の取組や，家庭での読書量については個人差が見られる。	・毎日，家庭学習に取り組み，自主的に課題を見つけて学習を進めていくことができるとともに，本の楽しさを味わい，読書に親しむことができる。	①CD版「学習ガイド」等を利用し，定期的に活用問題に取り組ませる。 ②太田ブックリストの推奨や読書賞の改善等で，読書生活への意欲を高め，読書活動の様子を家庭に伝える。		①全体的に CD 版の活用問題の利用頻度は少なかった。 ②学校においては，授業や読書の時間により本に親しむ時間がとれたが，家庭においては学習も含め，それぞれ個人差があることがアンケートで明らかになった。	・タブレット端末が導入されたため，より一層 ICT を活用した学習形態がとれるように授業改善と研修に努める。 ・家庭学習と読書活動については，家庭と連携を密にしながら進んで取り組めるようにする。

令和3年度　学力向上ロードマップ